

資料 1

矢上川地下調節池

洪水から暮らしを守る地下の貯留トンネル

トンネル本体 I 期工事説明会 (第 4 回)

令和 7 年 11 月 23 日 (日) 14:00～ 場所：野川小学校体育館
11 月 26 日 (水) 19:00～ 場所：梶ヶ谷小学校体育館
11 月 29 日 (土) 14:00～ 場所：久末小学校体育館



矢上川地下調節池事業の紹介

発注者：神奈川県横浜川崎治水事務所川崎治水センター
受注者：大成・大豊・土志田特定建設工事共同企業体

本日の説明の流れ

1 鶴見川流域の治水対策について

2 矢上川地下調節池について

3 トンネル本体 I 期工事について

- ① トンネル工事の概要
- ② トンネル工事のスケジュール
- ③ これまでの工事進捗状況
- ④ 初期掘進の結果
- ⑤ 今後の工事内容
- ⑥ 工事の見える化

4 家屋調査について

ビデオ
【第3回説明会と同内容】

本日の説明の流れ

1 鶴見川流域の治水対策について

2 矢上川地下調節池について

3 **トンネル本体 I 期工事について**

① **トンネル工事の概要**

② トンネル工事のスケジュール

③ これまでの工事進捗状況

④ 初期掘進の結果

⑤ 今後の工事内容

⑥ 工事の見える化

4 家屋調査について

ビデオ

【第3回説明会と同内容】

3-① トンネル工事の概要

工事名 : 一級河川矢上川地下調節池トンネル本体 I 期工事

工事箇所 : 一級河川 矢上川 川崎市宮前区梶ヶ谷地先他

契約工期 : 令和 4 年 10 月 14 日 ~ 令和 9 年 9 月 30 日

工事概要 : シールドトンネル工 L=2,026m

受注者 : 大成・大豊・土志田特定建設工事共同企業体

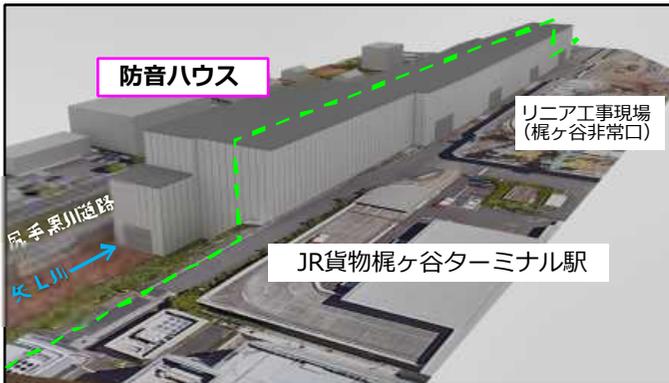


シールドマシン



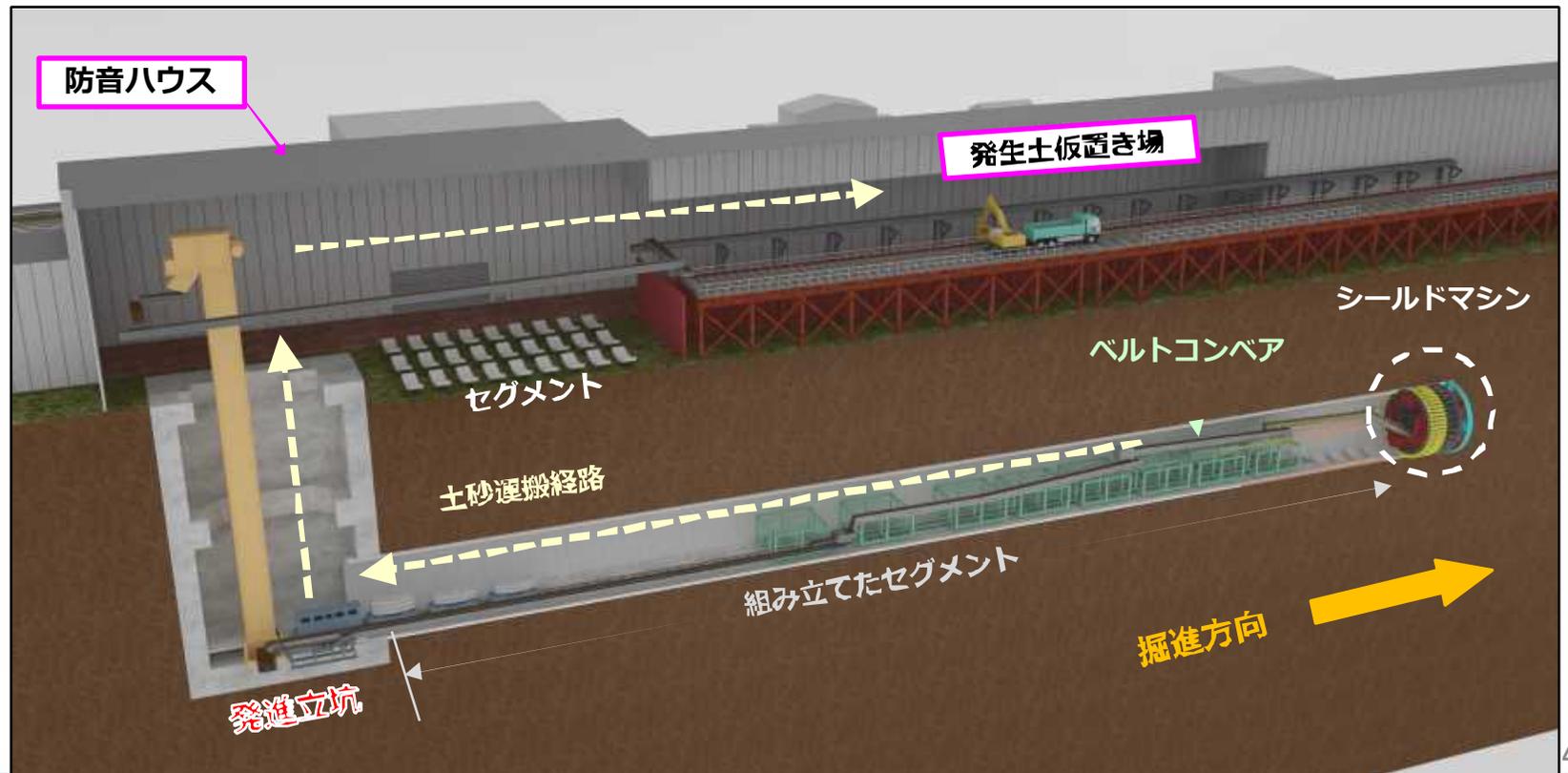
3-① トンネル工事の概要

鳥瞰図（発進立坑周辺）



- 作業ヤード及び発進立坑内でシールドマシンを組み立てます。
- シールドマシンで掘削し、後方でセグメントを組み立てます。
- 掘削した土砂は、ベルトコンベアでトンネル内を通り、地上の発生土仮置き場に運搬します。
- 発生土は、ダンプトラック等で搬出します。

断面図（発進立坑周辺）



本日の説明の流れ

1 鶴見川流域の治水対策について

2 矢上川地下調節池について

3 **トンネル本体 I 期工事について**

① トンネル工事の概要

② **トンネル工事のスケジュール**

③ これまでの工事進捗状況

④ 初期掘進の結果

⑤ 今後の工事内容

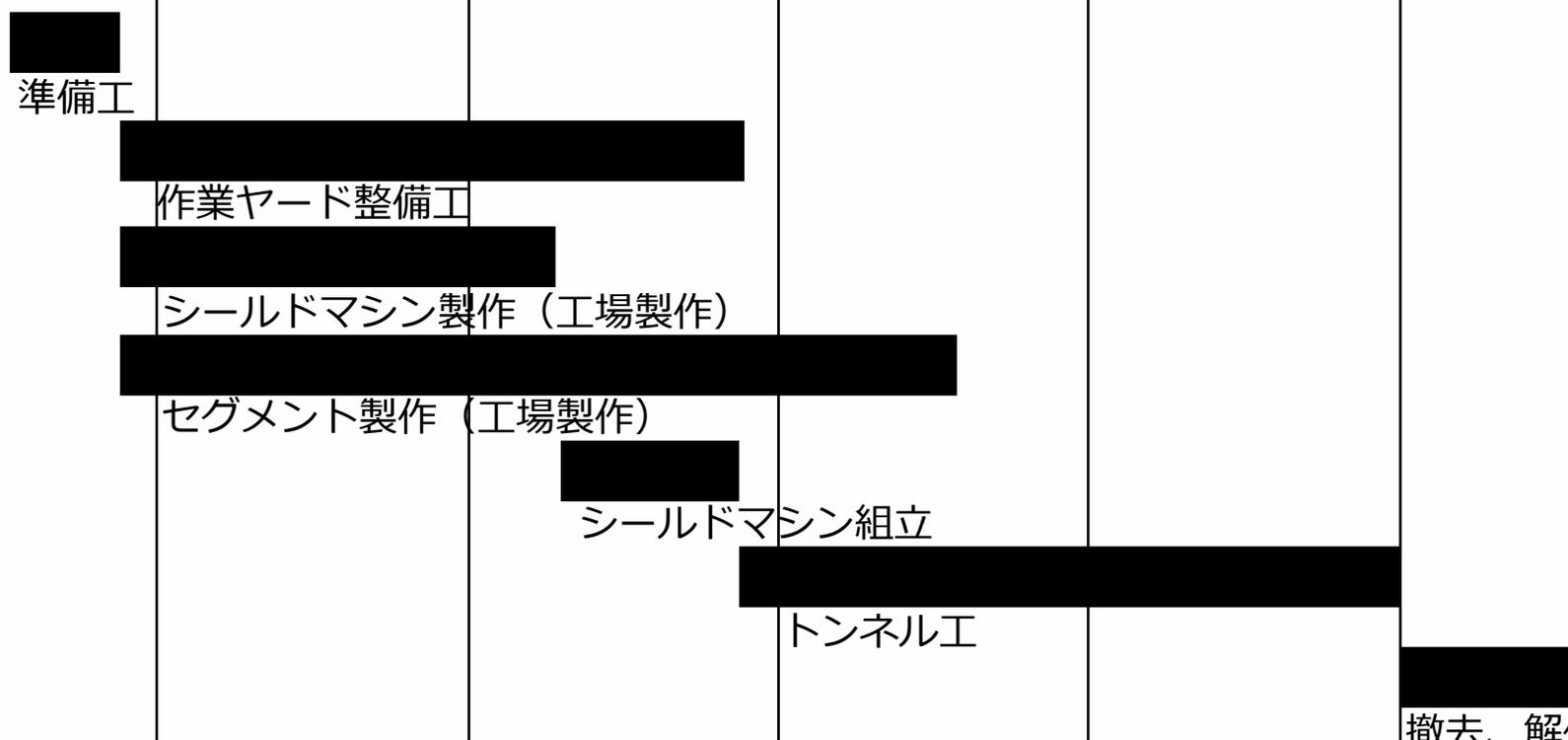
⑥ 工事の見える化

4 家屋調査について

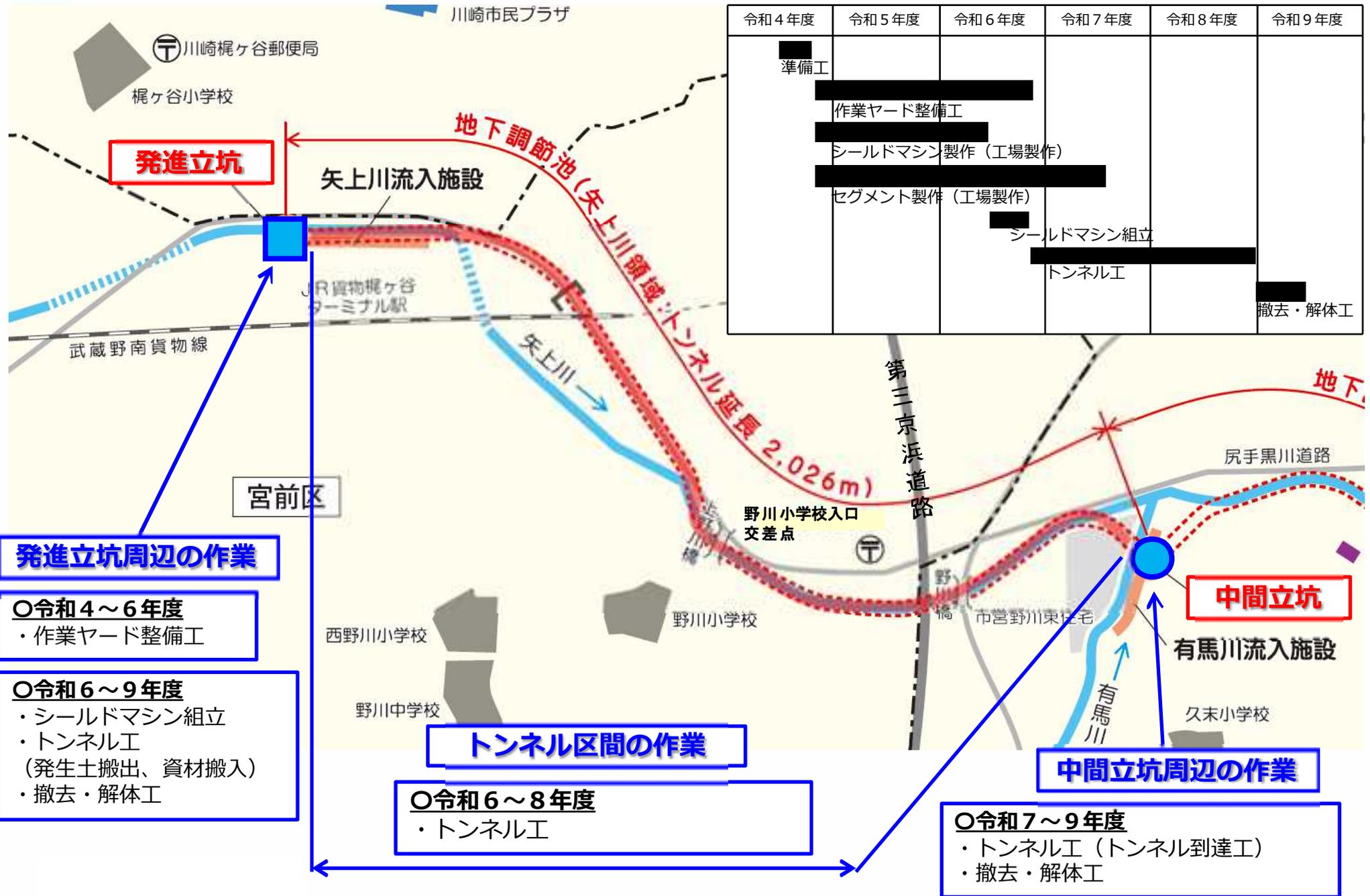
ビデオ

【第3回説明会と同内容】

3-② トンネル工事のスケジュール

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
【工事工程】  <p>準備工</p> <p>作業ヤード整備工</p> <p>シールドマシン製作（工場製作）</p> <p>セグメント製作（工場製作）</p> <p>シールドマシン組立</p> <p>トンネル工</p> <p>撤去、解体工</p>					
【工事説明会】 ★ 第1回（工事着手前） 令和5年1～2月	★ 第2回 令和6年2月	★ 第3回（トンネル掘進前） 令和6年11月	★ 第4回（トンネル掘進中） 令和7年11月	★ 第5回（トンネル掘進中） 令和8年秋頃（予定）	

3-② トンネル工事のスケジュール



本日の説明の流れ

1 鶴見川流域の治水対策について

2 矢上川地下調節池について

3 **トンネル本体 I 期工事について**

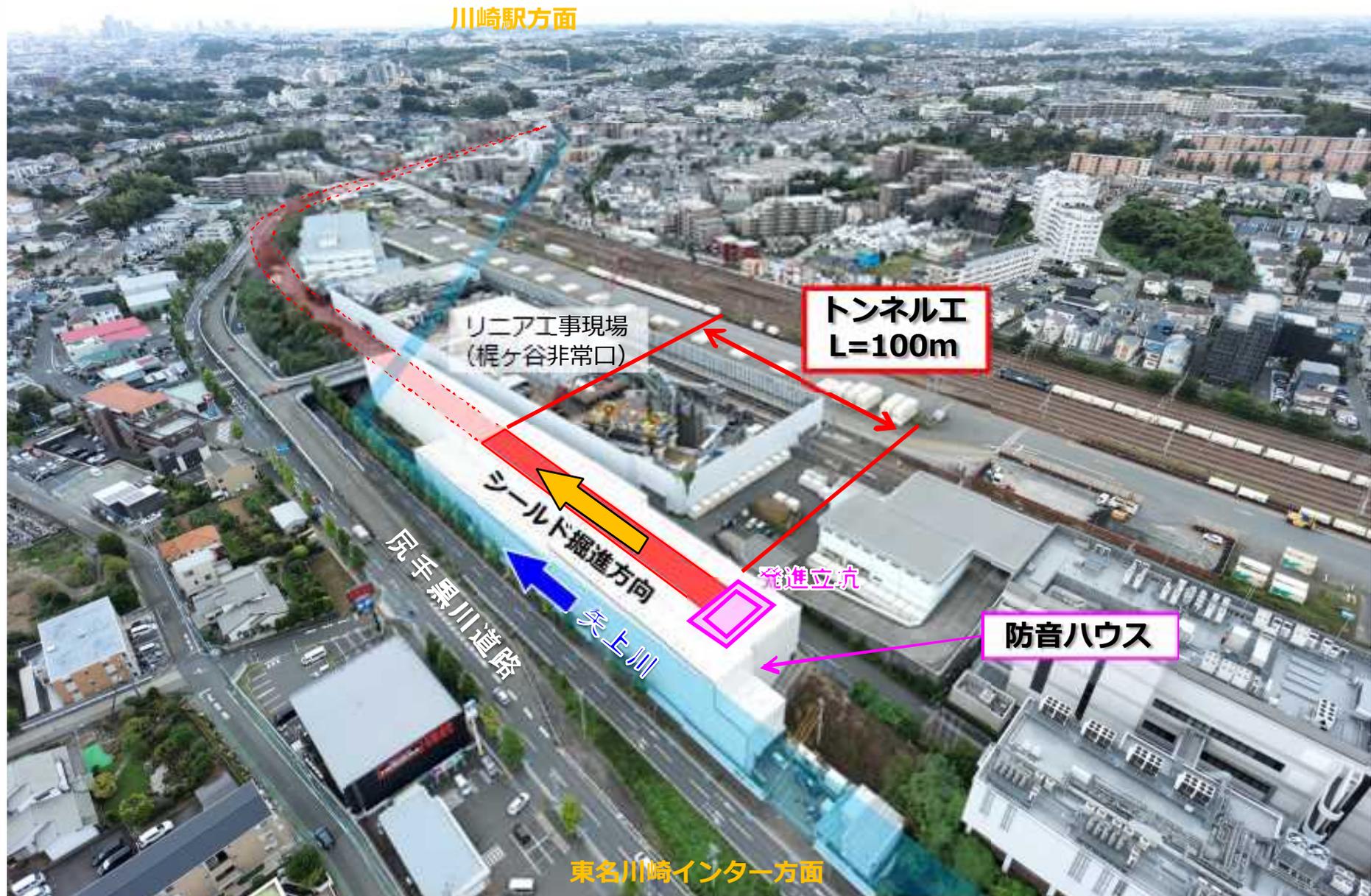
- ① トンネル工事の概要
- ② トンネル工事のスケジュール
- ③ **これまでの工事進捗状況**
- ④ 初期掘進の結果
- ⑤ 今後の工事内容
- ⑥ 工事の見える化

4 家屋調査について

ビデオ
【第3回説明会と同内容】

3-③ これまでの工事進捗状況

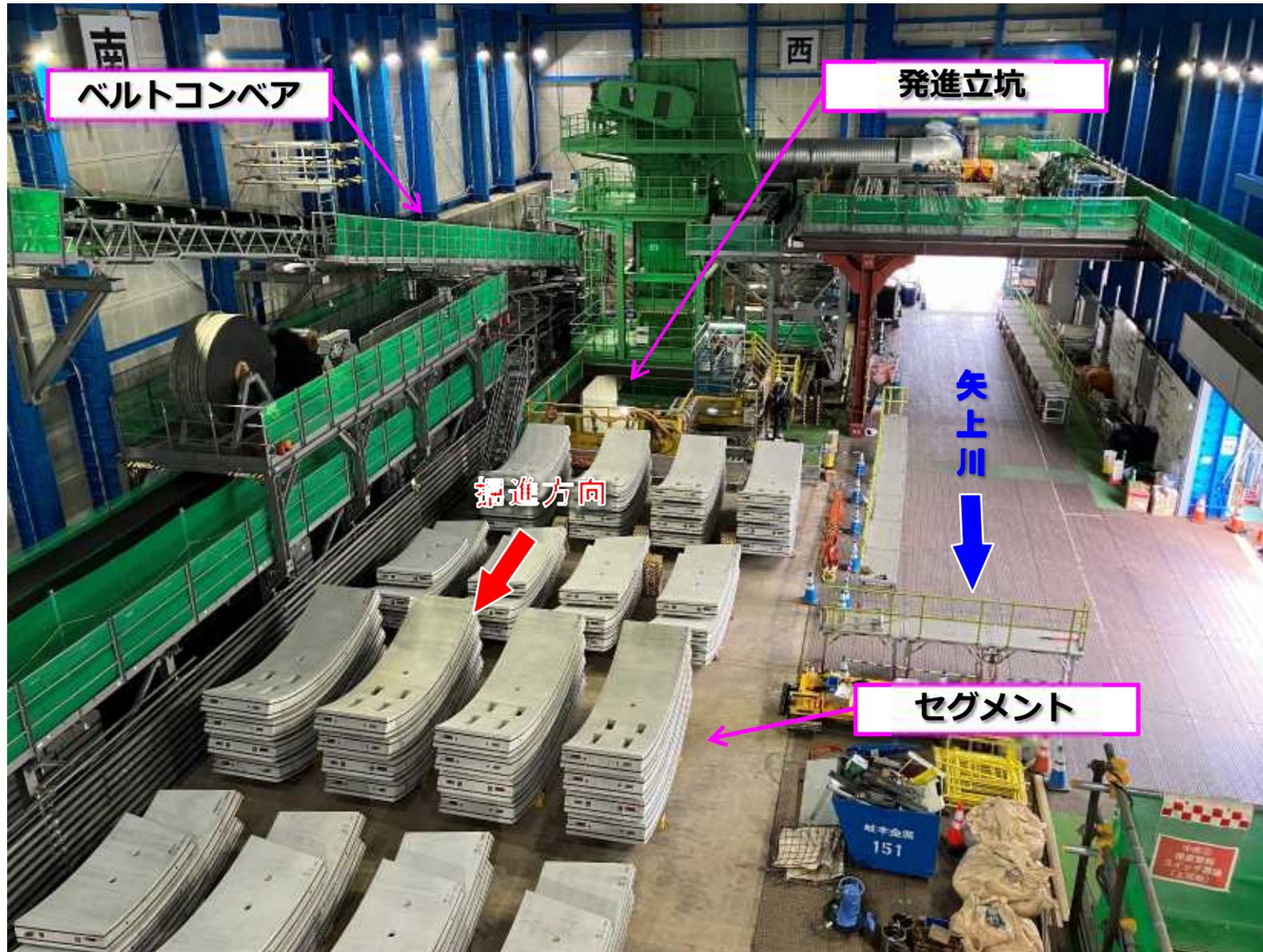
■ 作業ヤード(発進立坑周辺)の全体状況(令和7年10月)



※ドローンにより撮影

3-③ これまでの工事進捗状況

■ 防音ハウス内部(令和7年11月現在)



発進立坑周辺

3-③ これまでの工事進捗状況

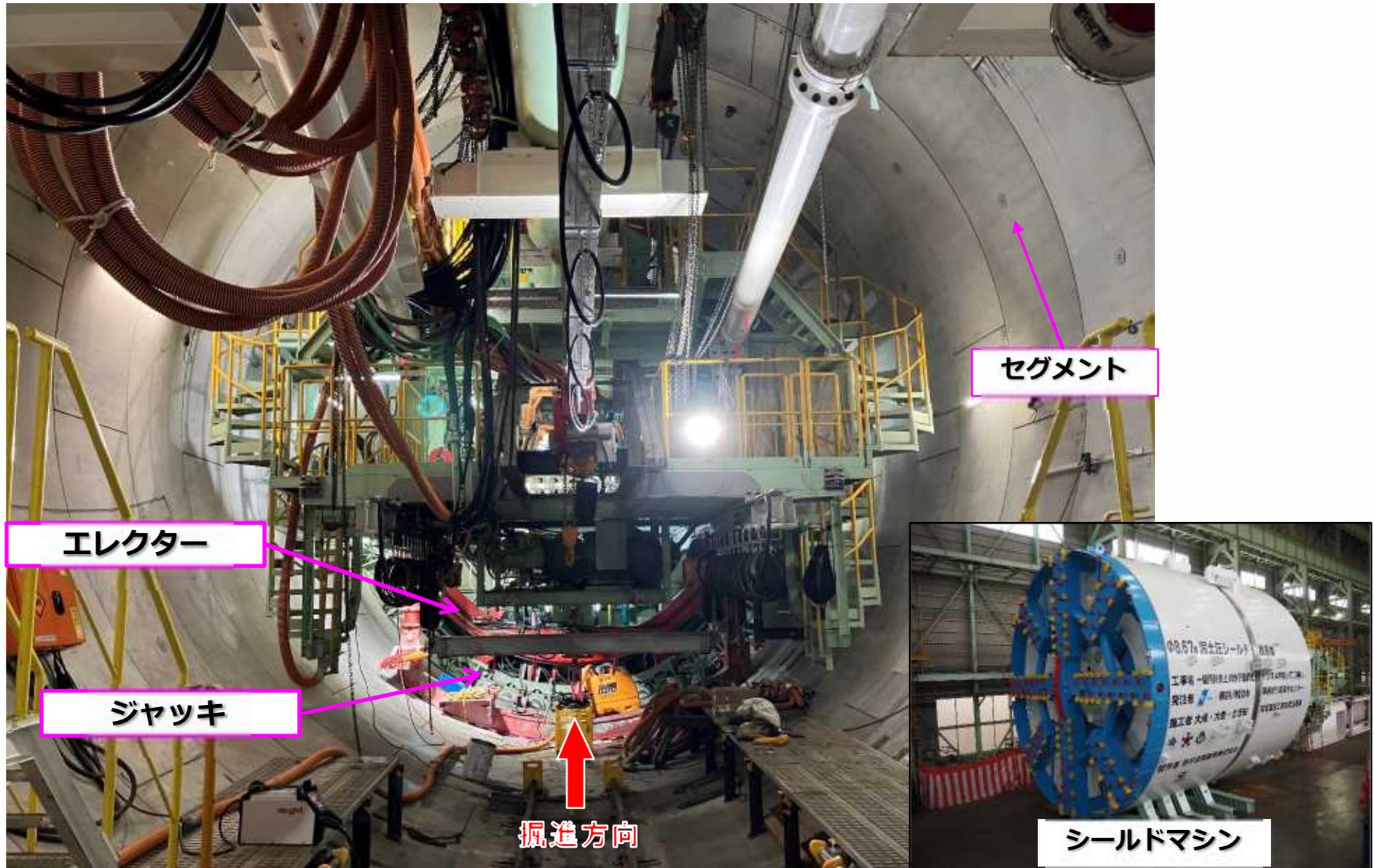
■ 防音ハウス内部(令和7年11月現在)



発生土仮置き場周辺

3-③ これまでの工事進捗状況

■ トンネル坑内(令和7年11月現在)



シールドマシン後景 (トンネル坑内100m付近)

3-③ これまでの工事進捗状況

■ セグメント製作(令和7年10月)



工場製作完了時

本日の説明の流れ

1 鶴見川流域の治水対策について

2 矢上川地下調節池について

3 **トンネル本体 I 期工事について**

- ① トンネル工事の概要
- ② トンネル工事のスケジュール
- ③ これまでの工事進捗状況
- ④ **初期掘進の結果**
- ⑤ 今後の工事内容
- ⑥ 工事の見える化

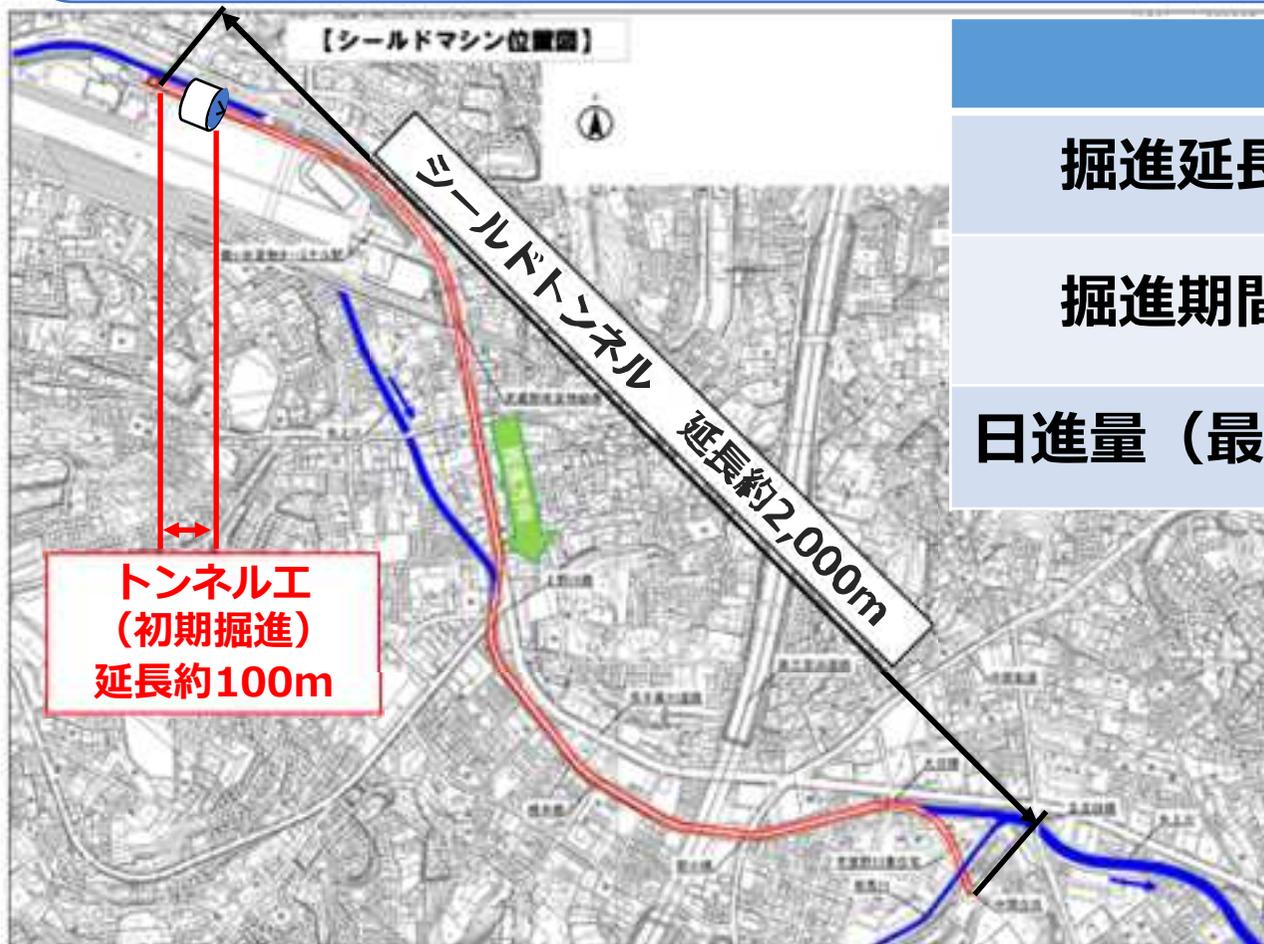
4 家屋調査について

ビデオ
【第3回説明会と同内容】

3-④ 初期掘進の結果

■ トンネル工(初期掘進)

トンネルの掘進は、初期掘進と本掘進に分けられ、初期掘進とは、シールドマシンを操作する設備を坑内に搬入するまでの掘進です。初期掘進では、本掘進時に必要となるデータ収集等も行いました。



	初期掘進
掘進延長	約100m
掘進期間	約4ヶ月 令和7年3月～6月
日進量(最大)	約5m/日

3-④ 初期掘進の結果

シールドトンネル施工技術検討会
・国土交通省
「シールドトンネル工事の安全・
安心な施工に関するガイドライン」
(令和3年12月)

背景

近年、道路事業等のシールドトンネル
工事で、地表面に影響を与える事
故が発生

目的

シールドトンネル工事の更なる安全
性の向上と周辺地域の安心の確保

矢上川地下調節池施工技術検討会
(令和4年3月設置)

背景

近年、シールドトンネル工事の影響
による地盤沈下等の事象が発生

目的

トンネル本体工事の施工にあたり、
事故等の発生を未然に防止すること

トンネル工事の施工にあたっては、ガイドラインや学識者の意見等を踏まえ、
安全・安心な施工に関する取組を行います。

3-④ 初期掘進の結果

～シールドトンネル工事で考慮すべき主な事項～

(1)事前調査 【説明済み】

トンネル工事の設計や施工計画、施工管理に大きく影響することから、事前調査を十分に行うことが重要

(2)施工管理 【今回説明】

シールド工法では、土圧や土砂の性状、掘削土砂量などについて、精度よく把握し、適切に管理して施工することが重要

(3)周辺の生活環境への配慮 【今回説明】

工事に伴う騒音・振動などについては、その抑制対策に取り組み、併せてモニタリングを行いながら、騒音・振動の低減に努めることが重要

(4)環境対策 【今回説明】

工事に伴う環境対策については、水質汚染防止やCO2排出量削減に努めることが重要

3-④ 初期掘進の結果

～トンネル本体 I 期工事で考慮すべき主な課題・取組～

考慮事項	課題	取組
(1)事前調査 【説明済み】	地質の状況把握	(1)-1 トンネルルート上の地質調査
	工事前の家屋等の状況把握	(1)-2 工事着手前の事前家屋調査
(2)施工管理 【今回説明】	マシン前面の圧力変化による 地盤変位の防止	(2)-1 土圧計による土圧の管理
	過剰な掘削土砂の取り込みによる 地盤変位の防止	(2)-2 流量計やレーザー照射等による 土量の管理
	適切な切羽土圧の管理による 安定した掘進の確保	(2)-3 土の流動性の可視化
(3)周辺の生活 環境への配慮 【今回説明】	騒音・振動の低減	(3)-1 作業ヤードの騒音対策
		(3)-2 トンネル内の騒音・振動対策
		(3)-3 シールドマシンの振動対策
	地表面の管理	(3)-4 トンネルルート上の地表面測定
	交通渋滞対策	(3)-5 車両監視システムによる渋滞対策
(4)環境対策 【今回説明】	工事中の排水	(4)-1 排水ルートの見直し
	CO2排出への配慮	(4)-2 LED照明設備の導入

3-④ 初期掘進の結果

～トンネル本体 I 期工事で考慮すべき主な課題・取組～

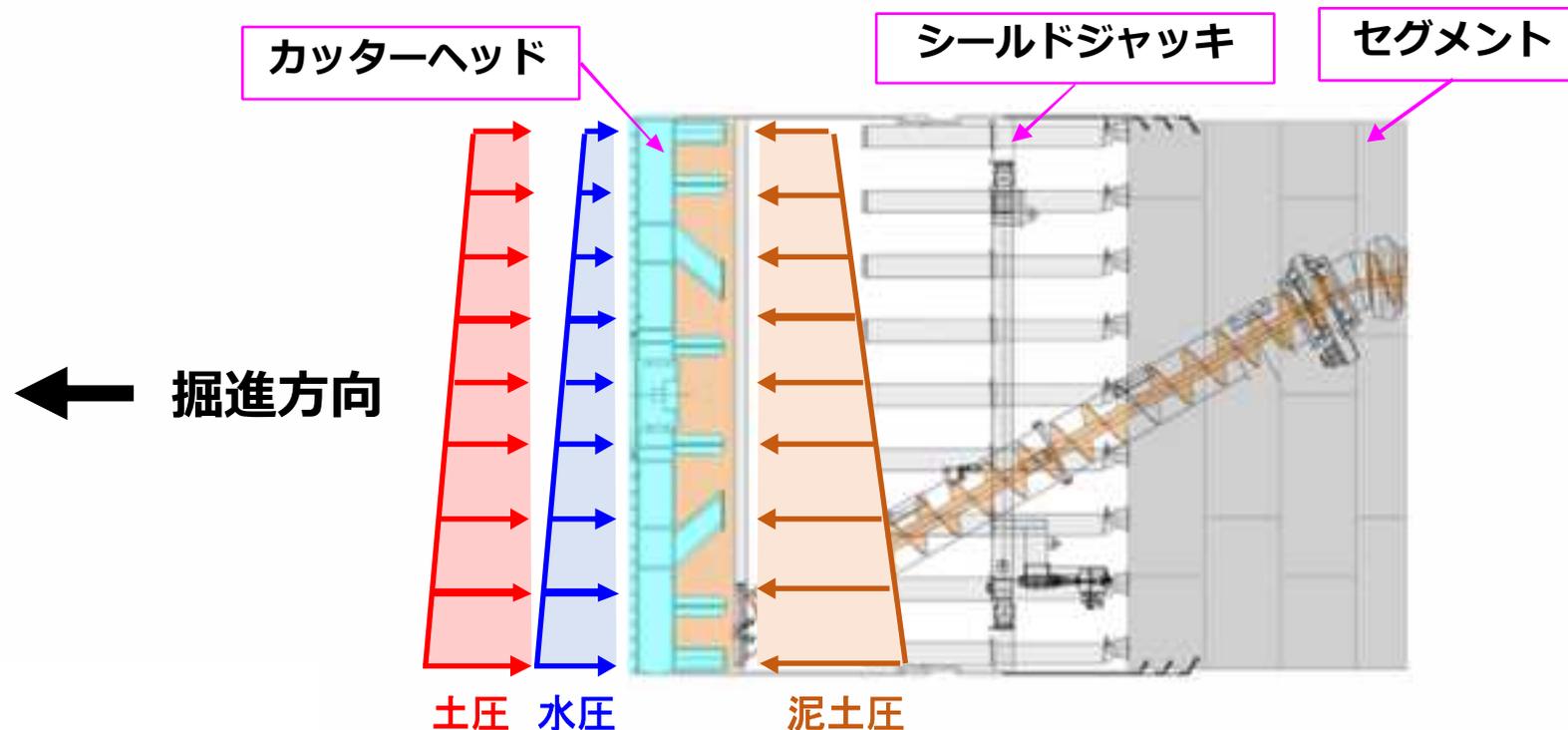
考慮事項	課題	取組
(1)事前調査 【説明済み】	地質の状況把握	(1)-1 トンネルルート上の地質調査
	工事前の家屋等の状況把握	(1)-2 工事着手前の事前家屋調査
(2)施工管理 【今回説明】	マシン前面の圧力変化による 地盤変位の防止	(2)-1 土圧計による土圧の管理
	過剰な掘削土砂の取り込みによる 地盤変位の防止	(2)-2 流量計やレーザー照射等による 土量の管理
	適切な切羽土圧の管理による 安定した掘進の確保	(2)-3 土の流動性の可視化
(3)周辺の生活 環境への配慮 【今回説明】	騒音・振動の低減	(3)-1 作業ヤードの騒音対策
		(3)-2 トンネル内の騒音・振動対策
		(3)-3 シールドマシンの振動対策
	地表面の管理	(3)-4 トンネルルート上の地表面測定
	交通渋滞対策	(3)-5 車両監視システムによる渋滞対策
(4)環境対策 【今回説明】	工事中の排水	(4)-1 排水ルートの見直し
	CO2排出への配慮	(4)-2 LED照明設備の導入

3-④ 初期掘進の結果

(2) 施工管理

シールド工法では、**地盤からの土圧**と**地下水の水圧**に対してシールドマシンから作用させる**泥土圧**でバランスを保ちながら、掘進します。

$$\text{土圧} + \text{水圧} \doteq \text{泥土圧}$$



3-④ 初期掘進の結果

(2) 施工管理

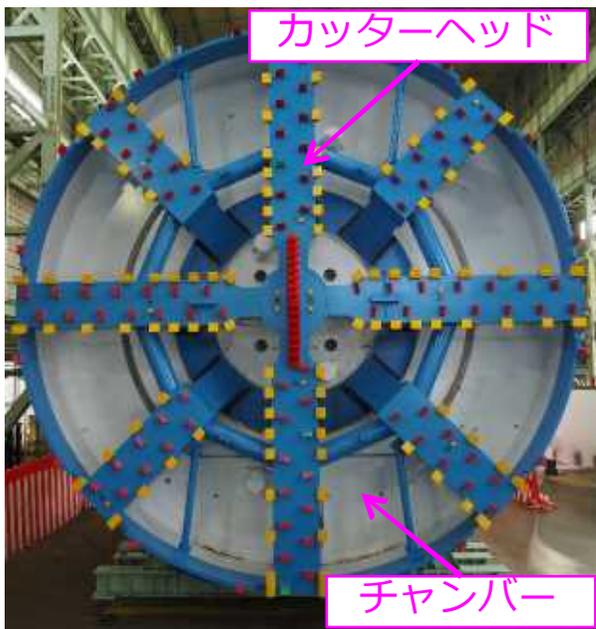
<取組 (2) - 1 : 土圧計による土圧の管理>

● 管理方法

マシン前面の圧力変化による地盤の変位を抑制するため、チャンバー内に土圧計を6箇所設置し、綿密に切羽土圧の管理をします。

● 初期掘進の結果【今回説明】

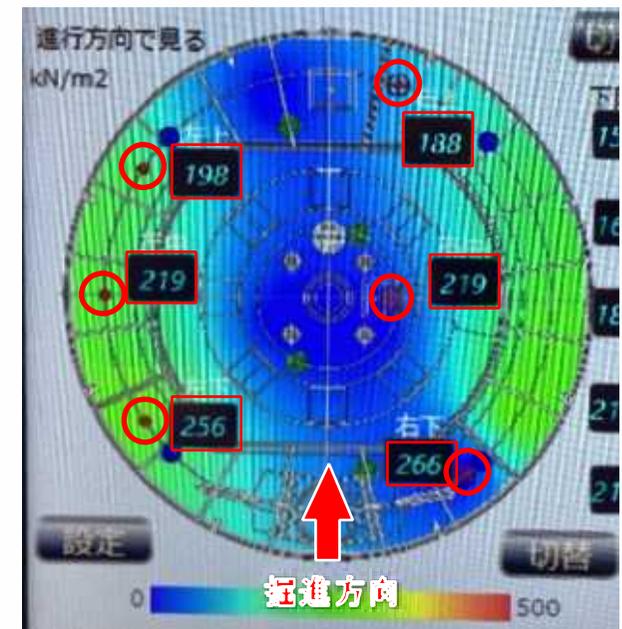
土圧が掘進前に設定した管理値内に収まり、バランスが保たれた状態で掘進できることを確認しました。



シールドマシン前面



チャンバー内の土圧計の配置箇所
(カッターヘッド設置前)



土圧の管理状況

3-④ 初期掘進の結果

(2) 施工管理

<取組（2） - 2：流量計やレーザー照射等による土量の管理>

● 管理方法

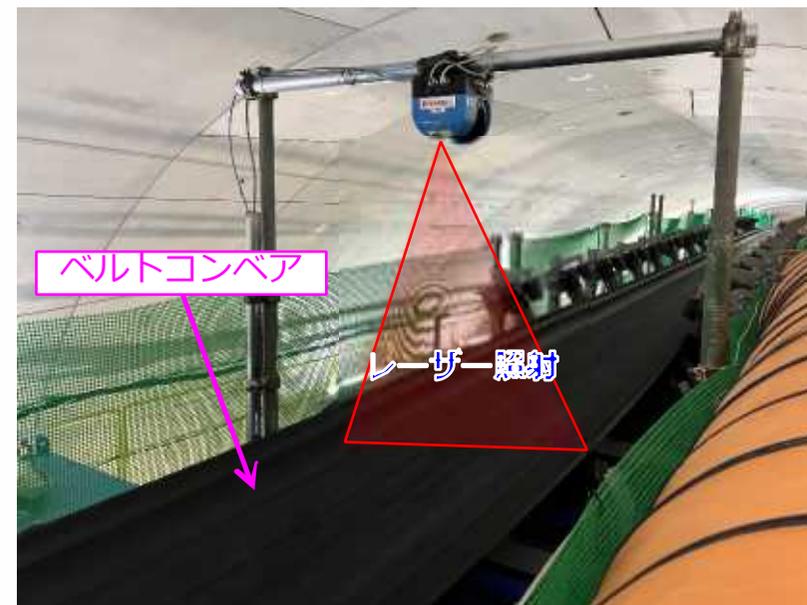
掘削土砂の体積を直接測定する「流量計」や、土砂にレーザーを照射して体積を測定する「ベルコンスキャナ」等を用いて、掘削土量を管理します。

● 初期掘進の結果【今回説明】

掘削土量が掘進前に設定した管理値内に収まり、土砂の取り込みすぎ等を防止できることを確認しました。



流量計



ベルコンスキャナ

3-④ 初期掘進の結果

(2) 施工管理

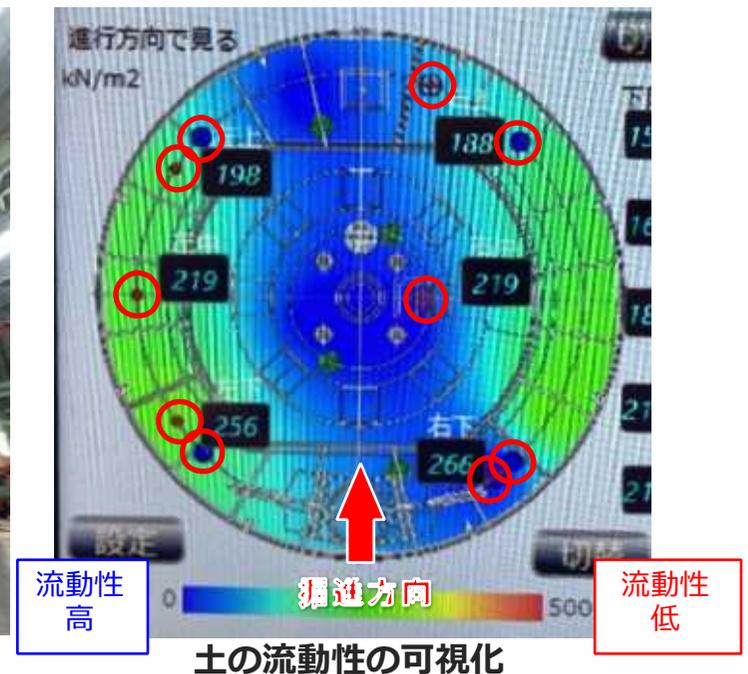
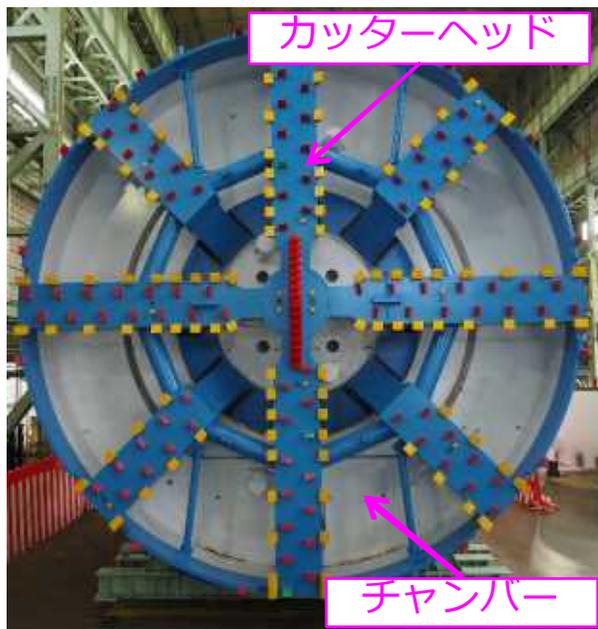
<取組 (2) - 3 : 土の流動性の可視化>

● 管理方法

安定した掘進を行うため、チャンバー内に設置した土圧計により、土の流動性を可視化し、切羽土圧を管理します。

● 初期掘進の結果【今回説明】

土の流動性を可視化することで、切羽の状態をより正確に把握し、適切に切羽土圧を管理できることを確認しました。



3-④ 初期掘進の結果

～トンネル本体 I 期工事で考慮すべき主な課題・取組～

考慮事項	課題	取組
(1)事前調査 【説明済み】	地質の状況把握	(1)-1 トンネルルート上の地質調査
	工事前の家屋等の状況把握	(1)-2 工事着手前の事前家屋調査
(2)施工管理 【今回説明】	マシン前面の圧力変化による 地盤変位の防止	(2)-1 土圧計による土圧の管理
	過剰な掘削土砂の取り込みによる 地盤変位の防止	(2)-2 流量計やレーザー照射等による 土量の管理
	適切な切羽土圧の管理による 安定した掘進の確保	(2)-3 土の流動性の可視化
(3)周辺の生活 環境への配慮 【今回説明】	騒音・振動の低減	(3)-1 作業ヤードの騒音対策
		(3)-2 トンネル内の騒音・振動対策
		(3)-3 シールドマシンの振動対策
	地表面の管理	(3)-4 トンネルルート上の地表面測定
	交通渋滞対策	(3)-5 車両監視システムによる渋滞対策
(4)環境対策 【今回説明】	工事中の排水	(4)-1 排水ルートの見直し
	CO2排出への配慮	(4)-2 LED照明設備の導入

3-④ 初期掘進の結果

(3) 周辺的生活環境への配慮

<取組 (3) - 1 : 作業ヤードの騒音対策>

<取組 (3) - 2 : トンネル内の騒音対策>

●測定方法

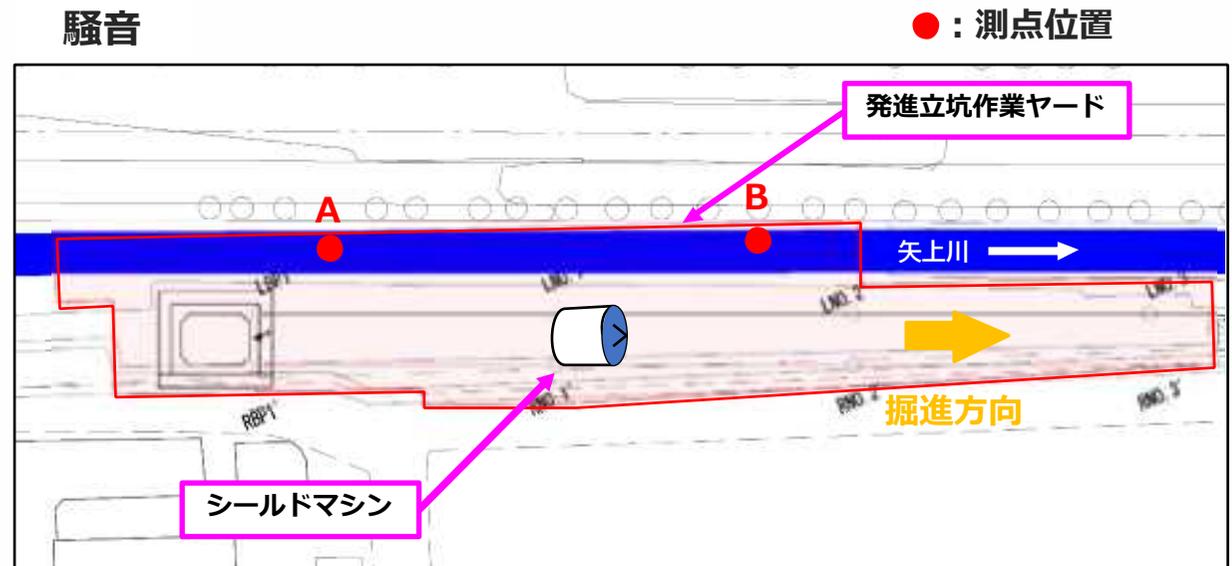
騒音は発進立坑作業ヤード内に2カ所(A・B)騒音計を設置し、24時間測定します。

●初期掘進の結果【今回説明】

掘進時における騒音は、シールドマシン停止中と同程度であり、掘進による騒音の影響が小さいことを確認しました。

各測点における騒音の平均値(騒音レベルLA5(db))

測点	停止中	掘進中(昼)	掘進中(夜)
A(固定点)	71	71	66
B(固定点)	70	71	70



騒音測定のイメージ

3-④ 初期掘進の結果

(3) 周辺的生活環境への配慮

<取組 (3) - 2 : トンネル内の振動対策>

<取組 (3) - 3 : シールドマシンの振動対策>

●測定方法

振動は騒音計と同じ2箇所(A・B)及びシールドマシン通過位置の左右それぞれ1箇所(C・D)の計4箇所振動計を設置し、24時間測定します。

●初期掘進の結果【今回説明】

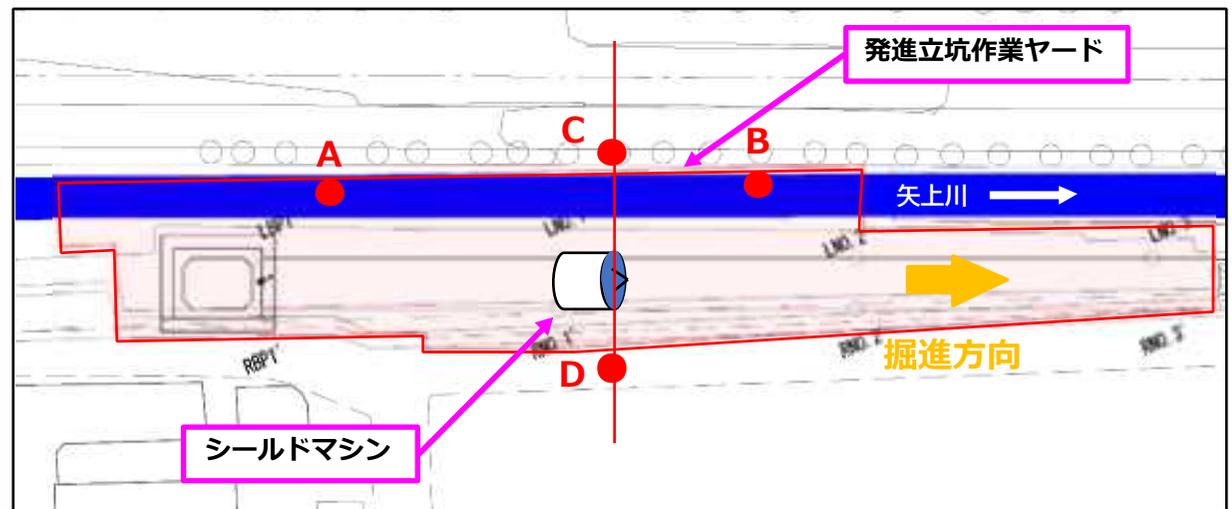
掘進時における振動は、シールドマシン停止中と同程度であり、掘進による振動の影響が小さいことを確認しました。

各測点における振動の平均値(振動レベルL10(db))

測点	停止中	掘進中(昼)	掘進中(夜)
A(固定点)	42	44	42
B(固定点)	42	44	44
C(動点)	48	50	43
D(動点)	30	35	38

振動

● : 測点位置



振動測定のイメージ

3-④ 初期掘進の結果

(3) 周辺的生活環境への配慮

<取組 (3) - 4 : トンネルルート上の地表面測定>

●測定方法

変位は計測機器 (レベル) を用いて、トンネルルート上の左右それぞれ2測点を10mピッチで測定します。測定回数は、シールドマシンの通過前・通過時は1回/日、通過後3か月後までは通過時期に応じて、1回/日から1回/月です。

●初期掘進の結果【今回説明】

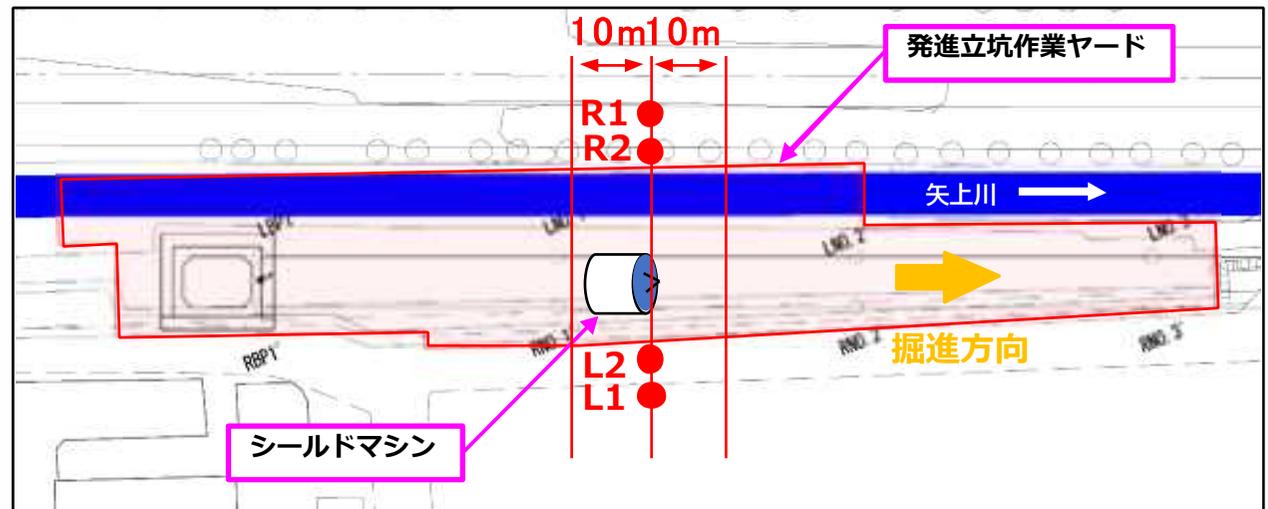
地表面変位は大きな変動がなく、安全に掘進できることを確認しました。

各測点における地表面変位

測点	地表面変位
L1(動点)	-2mm ~ +2mm
L2(動点)	-2mm ~ +2mm
R1(動点)	-2mm ~ +2mm
R2(動点)	-2mm ~ +2mm

地表面変位

● : 測点位置



地表面変位測定イメージ

3-④ 初期掘進の結果

～トンネル本体 I 期工事で考慮すべき主な課題・取組～

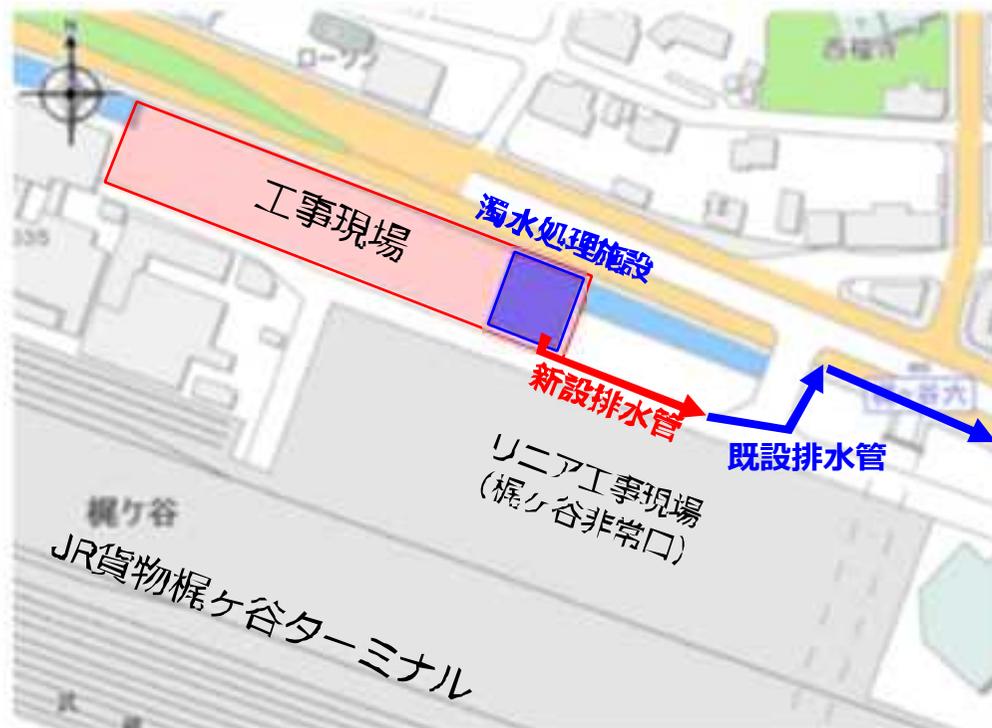
考慮事項	課題	取組
(1)事前調査 【説明済み】	地質の状況把握	(1)-1 トンネルルート上の地質調査
	工事前の家屋等の状況把握	(1)-2 工事着手前の事前家屋調査
(2)施工管理 【今回説明】	マシン前面の圧力変化による 地盤変位の防止	(2)-1 土圧計による土圧の管理
	過剰な掘削土砂の取り込みによる 地盤変位の防止	(2)-2 流量計やレーザー照射等による 土量の管理
	適切な切羽土圧の管理による 安定した掘進の確保	(2)-3 土の流動性の可視化
(3)周辺の生活 環境への配慮 【今回説明】	騒音・振動の低減	(3)-1 作業ヤードの騒音対策
		(3)-2 トンネル内の騒音・振動対策
		(3)-3 シールドマシンの振動対策
	地表面の管理	(3)-4 トンネルルート上の地表面測定
	交通渋滞対策	(3)-5 車両監視システムによる渋滞対策
(4)環境対策 【今回説明】	工事中の排水	(4)-1 排水ルートの見直し
	CO2排出への配慮	(4)-2 LED照明設備の導入

3-④ 初期掘進の結果

(4)環境対策 【今回説明】

<取組(4)－1：排水ルートの見直し>

工事中の排水は、当初工事現場内の濁水処理設備を通して直接河川へ流す計画でしたが、環境への配慮をさらに高めるため、濁水処理設備から排水管を通して、下水処理施設へと流す計画に**見直しました**。



排水ルート図



濁水処理施設

3-④ 初期掘進の結果

(4)環境対策 【今回説明】

<取組(4)－2：LED照明設備の導入>

当初、現場内の一部の照明設備にLED照明を導入する計画でしたが、CO2の排出量の削減のため、全照明設備にLED照明を導入する計画に見直しました。



LED照明設備（トンネル坑内）



LED照明設備（防音ハウス内）

本日の説明の流れ

1 鶴見川流域の治水対策について

2 矢上川地下調節池について

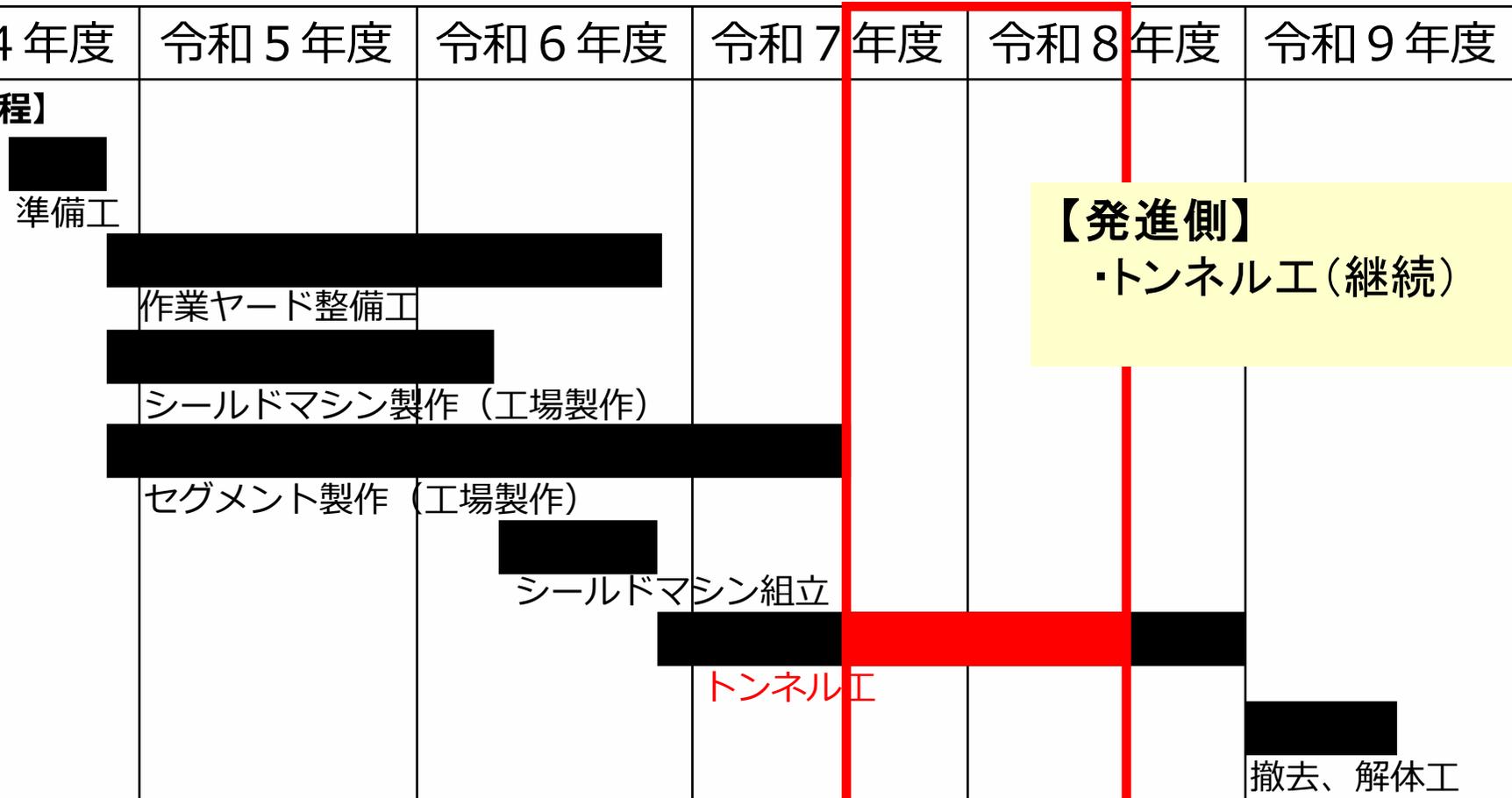
3 **トンネル本体 I 期工事について**

- ① トンネル工事の概要
- ② トンネル工事のスケジュール
- ③ これまでの工事進捗状況
- ④ 初期掘進の結果
- ⑤ **今後の工事内容**
- ⑥ 工事の見える化

4 家屋調査について

ビデオ
【第3回説明会と同内容】

3-⑤ 今後の工事内容

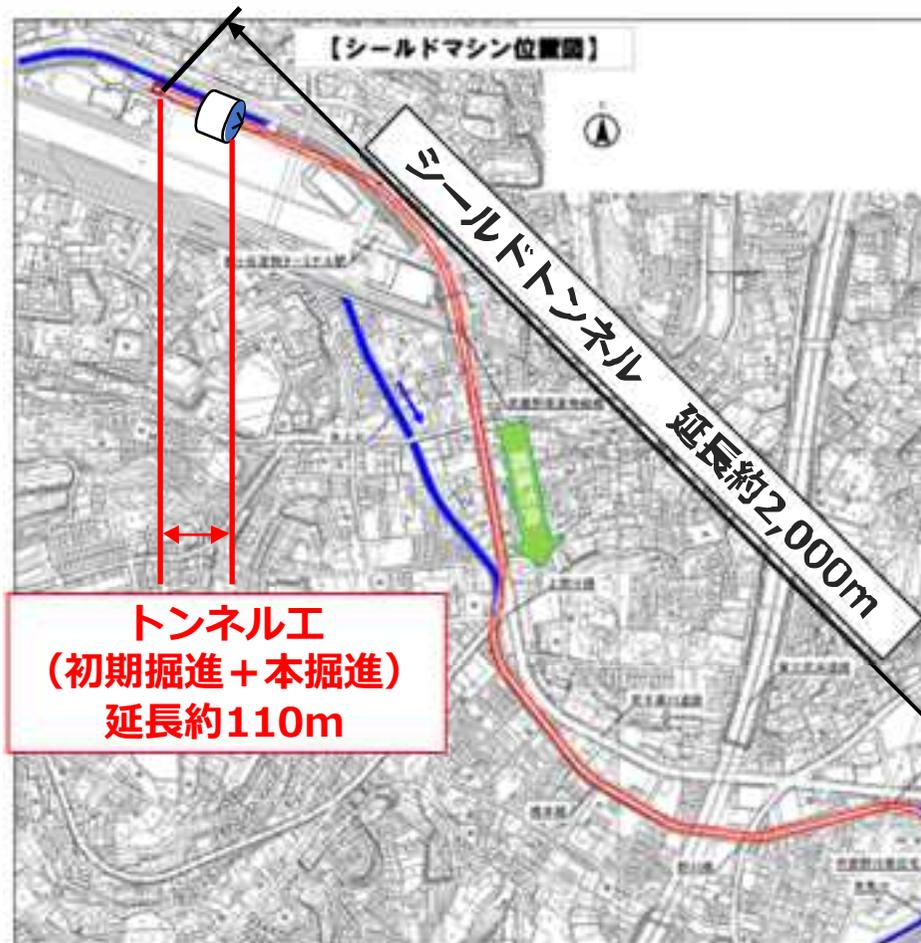
令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
【工事工程】 					
				【発進側】 ・トンネル工(継続)	
【工事説明会】 ★第1回(工事着手前) 令和5年1~2月 ★第2回 令和6年2月 ★第3回(トンネル掘進前) 令和6年11月 ★第4回(トンネル掘進中) 令和7年11月 ★第5回(トンネル掘進中) 令和8年秋頃(予定)					

3-⑤ 今後の工事内容

■ トンネル工(本掘進)

本掘進は令和7年11月6日に開始し、これまで約10m進み、初期掘進と合わせて発進立坑から約110mを掘進しました。

今後、残る1,890mを令和8年12月までに掘進していく予定です。



	本掘進
掘進延長	約1,900m
掘進期間	約14ヶ月 令和7年11月～令和8年12月 (予定)
日進量 (最大)	約10m/日 (予定)
ダンプ 搬出台数 (最大)	約140台/日 (予定)

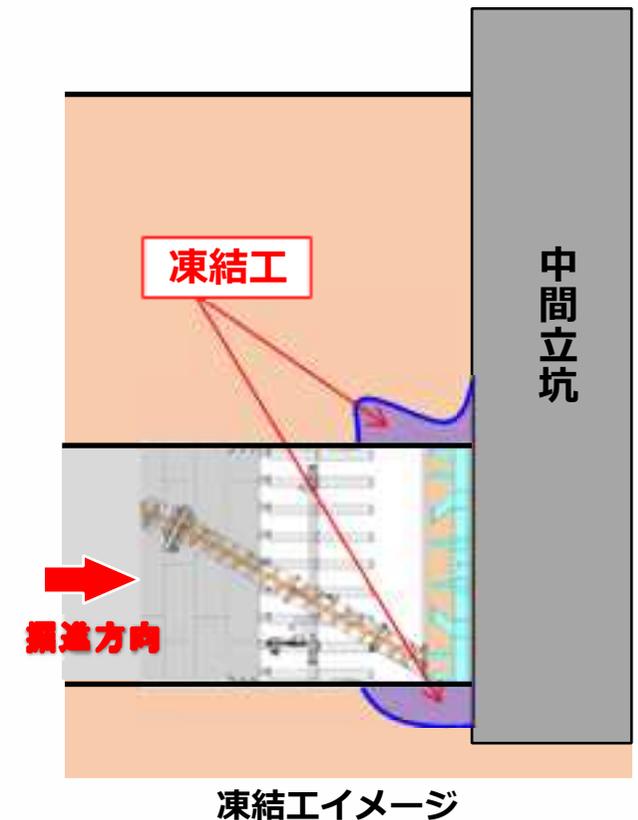
3-⑤ 今後の工事内容

■ 中間立坑付近での工事(凍結工)

凍結工とは、地盤の間隙水を氷結させることで、地盤を一時的に固結させ、遮水壁や耐力壁等として利用する工法です。本工事では、マシンが中間立坑へ到達する時の補助工法として実施します。

・ 工程

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
【工事工程】			
	トンネル工		撤去、解体工
【中間立坑付近工事工程】			
	準備工	凍結工	撤去、解体工



3-⑤ 今後の工事内容

～トンネル本体 I 期工事で考慮すべき主な課題・取組～

考慮事項	課題	取組
(1)事前調査 【実施済み】	地質の状況把握	(1)-1 トンネルルート上の地質調査
	工事前の家屋等の状況把握	(1)-2 工事着手前の事前家屋調査
(2)施工管理 【今回説明】	マシン前面の圧力変化による 地盤変位の防止	(2)-1 土圧計による土圧の管理
	過剰な掘削土砂の取り込みによる 地盤変位の防止	(2)-2 流量計やレーザー照射等による 土量の管理
	適切な切羽土圧の管理による 安定した掘進の確保	(2)-3 土の流動性の可視化
(3)周辺の生活 環境への配慮 【今回説明】	騒音・振動の低減	(3)-1 作業ヤードの騒音対策
		(3)-2 トンネル内の騒音・振動対策
		(3)-3 シールドマシンの振動対策
	地表面の管理	(3)-4 トンネルルート上の地表面測定
	交通渋滞対策	(3)-5 車両監視システムによる渋滞対策
(4)環境対策 【今回説明】	工事中の排水	(4)-1 排水ルートの見直し
	CO2排出への配慮	(4)-2 LED照明設備の導入

3-⑤ 今後の工事内容

(3) 周辺の生活環境への配慮

<取組(3)–5：車両監視システムによる渋滞対策>

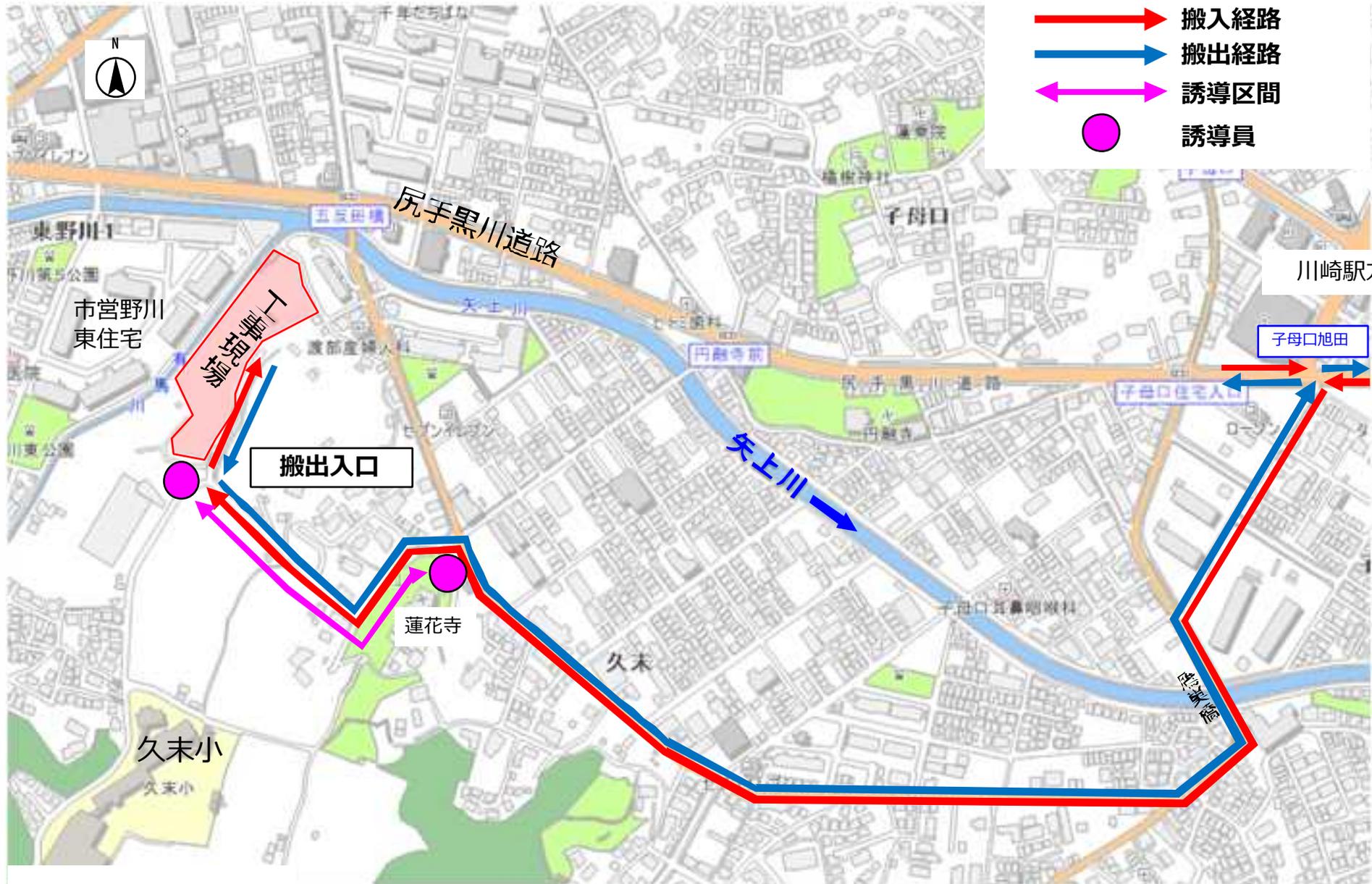
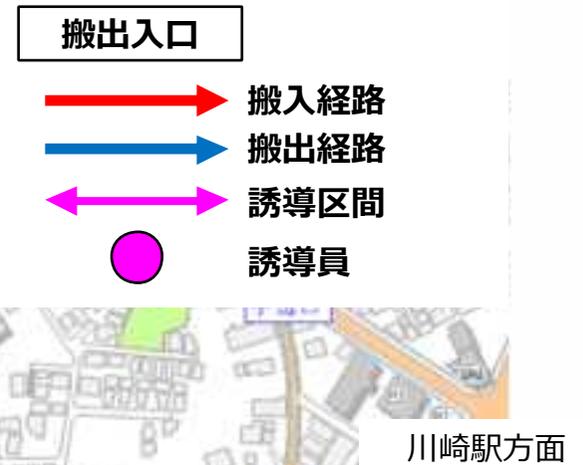
土砂の運搬は、全ダンプトラックにGPSを利用した車両監視システムを搭載し、位置情報を常時把握しながら、交通渋滞を避けたルートに誘導するなど、周辺の渋滞対策に取り組みます。



車両監視システムイメージ

3-⑤ 今後の工事内容

■ 資機材搬出入ルート(中間立坑周辺)



3-⑤ 今後の工事内容

■ 工事車両の安全対策

- ・交通誘導員の配置など、車両出入時の安全対策を図ります。
- ・公道では法定速度を守り
作業ヤード周辺では徐行運転を徹底します。
- ・近隣の道路で待機車両が発生しないように努めます。
- ・本工事の工事車両であることが分かるよう表示します。



工事車両	
一級河川矢上川地下調節池 トンネル本体Ⅰ期工事	
業者名	
連絡先	
発注者	神奈川県川崎治水センター TEL 044-932-7211
受注者	大成・大豊・土志田JV TEL 044-789-8627

工事車両の表示

3-⑤ 今後の工事内容

■ 作業日

月曜日～金曜日まで（祝日含む）

※この工事は、週休2日の確保に取り組んでおり、
原則 土曜日、日曜日は作業を行いません

■ 作業時間

発進立坑周辺（宮前区梶ヶ谷）

・トンネル工 : 昼間作業 8:00 ~ 18:00
夜間作業 20:00 ~ 6:00

中間立坑周辺（高津区久末） **【今回説明】**

・トンネル工（トンネル到達工） : 昼間作業 8:00 ~ 18:00

※中間立坑周辺では、8:00～9:00に工事車両の出入りは行いません

※作業状況により、時間外作業を行う場合もあります

■ 土砂運搬時間（発進立坑周辺のみ）

・ダンプトラック土砂運搬 : 昼間作業 6:30 ~ 18:00

本日の説明の流れ

1 鶴見川流域の治水対策について

2 矢上川地下調節池について

3 **トンネル本体 I 期工事について**

① トンネル工事の概要

② トンネル工事のスケジュール

③ 令和5年度までの工事進捗状況

④ 令和6年度の工事内容

⑤ 安全・安心な施工に関する取組

⑥ **工事の見える化**

4 家屋調査について

ビデオ

【第3回説明会と同内容】

3-⑥ 工事の見える化

～事業をより知っていただくために～

(1)情報発信

トンネル工事現場付近に設置したデジタルサイネージや、川崎治水センターホームページで、事業内容や工事の進捗状況を発信します。

(2)現場見学会 **【今回説明】**

地域の皆様に、事業をより詳しく知っていただくために、現場見学会を開催します。

3-⑥ 工事の見える化

(1) 情報発信 (デジタルサイネージ)

- 発進立坑作業ヤードにおいて、デジタルサイネージ (映像表示装置) を設置し、工事の情報を発信しています。
- トンネル掘進中は、シールドマシンの位置情報等の掲載をしています。



発進立坑施工ヤード外観



デジタルサイネージ



シールドマシン掘進状況の掲示

3-⑥ 工事の見える化

(1) 情報発信 (ホームページ)

- 川崎治水センターホームページにて、トンネル工事の進捗状況に合わせて、施工状況写真、マシン位置、地表面の変位、騒音・振動の測定値を情報提供しています。



川崎治水センターホームページ

情報提供内容一覧

項目	頻度
施工状況写真	1ヶ月に1回程度
マシン位置	1週間に1回程度
地表面の変位	1ヶ月に1~2回
騒音・振動の測定値	1ヶ月に1~2回



ホームページ掲載例

3-⑥ 工事の見える化

(2)現場見学会 **【今回説明】**

- 地域の皆様を対象にした現場見学会を令和8年2月（予定）から開始します。
 - ・ 見学時期：2回/月 程度
 - ・ 見学人数：10～20名/回
 - ・ 見学時間：1時間～1時間30分
 - ・ 申込方法：今後、各自治会が回覧する内容をご覧ください



発進立坑内



インフォメーションセンター内部

本日の説明の流れ

1 鶴見川流域の治水対策について

2 矢上川地下調節池について

3 トンネル本体 I 期工事について

① トンネル工事の概要

② トンネル工事のスケジュール

③ 令和5年度までの工事進捗状況

④ 令和6年度の工事内容

⑤ 安全・安心な施工に関する取組

⑥ 工事の見える化

4 家屋調査について

ビデオ

【第3回説明会と同内容】

4 家屋調査について

■ 事前家屋調査【説明済み】

工事による建物等への損傷を確認するため、工事の着手前に家屋調査を実施しました。

調査時期：令和5年9月～令和6年7月

調査件数：約180件



■ 事後家屋調査【実施予定】

事前家屋調査で確認された損傷の変化及び工事によって新たに発生した損傷について、**工事の完了後（令和9年9月以降）に家屋調査**を実施します。

なお、事後家屋調査の意向確認は、事前家屋調査を実施した方へ、工事完了のお知らせと合わせて配布します。

連絡先

■ 事業に関すること

発注者：神奈川県横浜川崎治水事務所川崎治水センター

担当：工務課

住所：川崎市多摩区生田4-25-1

電話：044-932-7211

(受付日時／土・日・祝日を除く8時30分～17時)

■ 工事に関すること

受注者：大成・大豊・土志田特定建設工事共同企業体

担当：矢上川地下調節池トンネル工事作業所

住所：川崎市宮前区馬絹6丁目10-9

電話：044-789-8627

(受付日時／土・日を除く8時～18時)

※シールドトンネル掘進中は、昼・夜ともに対応します